

## 幸せって何？

学校所在府県：大阪府

学校名：大阪府立泉北高等支援学校

名前：大西 義浩(基礎・社会生活)

実践教科：基礎・社会生活

指導時数：11 時間

対象学年：高等支援 3 年生(1 クラス)

対象人数：7 人

### 1. 教師海外研修を通して感じたこと

研修から帰ってきて振り返って一番感じたことは、ブラジルは遠くて本当に広がった！です。そして、ブラジルに実際、行ってみて知らなかったことが多かったことを実感しました。研修に行く前に、実践授業で伝えたいことを考えていた内容が 180 度変わるくらいの刺激を受けて帰国し、見てきたことを全て子どもたちに伝えたいと思いました。

また、JICA が関わっているボランティアや事業を見学し、触れたことで、貢献されているいろいろな技術を、何故ブラジルで必要とされているのかしっかり理解していきたくと思いました。帰国してからは、今、自分が関わっている人に伝えられる技術は何か、身のまわりにある自分が習得できる技術は何かを考えるようにもなりました。さらにトメアスで、アグロフォレストリーに直に触れたこと、日系家族でホームスティしたことで、農業により親近感を持ち、農業について学びたいとも思いました。

今回の研修で触れたのはブラジルの一部ですが、その中で日本の文化を伝えようと懸命に頑張っている人々を見て、日本の文化をもう一度見つめ直し、大切にしていきたいと感じました。

### 2. カリキュラム

#### (1) 実践の目的・背景

ブラジルに行く前は、日本とは異なる文化のブラジルに住んでいる人の生活、職業などを知ること、自分たちのライフスタイル、強み、よさなどを再確認し、その上で、これから幸せに生きていくには、どうしていくことがいいのか考え、見つめ直すことが目的でした。

実際にブラジルに行ってみて、初めて知ったことが沢山ありました。あまりにも多くのことを学び、感動したことも多かったのも、ブラジルで知ったことを全て、子どもたちに伝えたいと強く考えました。実践の目的である日本に住んでいる自分たちの見つめ直しができるように、ブラジルのいろいろな面を少しでも多く子どもたちに五感を使って伝えていけるように授業を考えていきました。

授業は、自分が味わった感動を伝えるだけでなく、子どもたちも感動しながら学べるように考えました。支援学校の子どもは、自分の考えていることを文章に書いていくことよりも、五感を使って表現することの方が得意なので、五感を使って感動できるように意識しました。

#### (2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<b>1 時限目</b> ブラジルを体感する 1 *ブラジルという国を身近に感じさせる。	<ul style="list-style-type: none"><li>●ブラジルで出会った日本でよく知られている人の写真を見せる</li><li>●ベレンの川でポーズをして撮った写真やその川の景色などの写真を見せる。</li><li>●ベレンの位置を地図で確認する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●ブラジルで撮った写真</li></ul>
<b>2～4 時限目</b> ブラジルを体感する 2 *日本では栽培していないカカオ豆、アサイーについて知る。	<ul style="list-style-type: none"><li>●カカオ豆について説明する。</li><li>●実際のカカオポット、カカオ豆を見る。</li><li>●カカオの栽培場所の説明、同じ地域で栽培されているアサイーを紹介する。</li><li>●アサイー工場の写真、動画などを見る。</li><li>●ブラジルから入手したアサイー、胡椒などを見る。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●ブラジルから入手したカカオポット、カカオ豆、アサイー、胡椒。</li></ul>

<b>5～6 時限目</b> ブラジルを体感する 3 *カカオ豆からカカオマスをつくる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●焙煎して、粉々にしたカカオ豆を見る。</li> <li>●カカオ豆からチョコレートができる工程を見る。</li> <li>●カカオマスを使ってカカオラテをつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●明治の HP、カカオマス、写真</li> </ul>
<b>7 時限目</b> ブラジルまでの飛行ルートを知る *日本からブラジルまでの距離を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本にある世界地図ではなく、ブラジルにある世界地図をつくる。</li> <li>●日本からブラジルまでの行き方を確認する。(実際に渡伯したルートを確認。)</li> <li>●何故、ドイツのフランクフルト空港を経由したか理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●世界白地図</li> </ul>
<b>8 時限目</b> 水の大切さを知る *ブラジルなど日本以外の水のことを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●水が安全な国は少ないことを知る。</li> <li>●水の大切さを知り、水とのかかわり方を考える。</li> <li>●水を大切にするには、どうすればいいのか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●世界の水問題、オンダリンパとチエテ川の資料、パンフレット、写真</li> </ul>
<b>9 時限目</b> ブラジルの中でみられる日本のよさを知る *ブラジルで導入された交番システムを知り、日本のよさを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ブラジルの交番システムについて知る。</li> <li>●ブラジルにある日本文化を知る</li> <li>●ブラジルで活躍している日本人を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●交番の写真や資料。リベルダージ地区の写真や日系学校の写真</li> </ul>
<b>10 時限目</b> ブラジルの障害者施設を知る *ブラジルの障害者の状況について知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●PIPA の資料を見る。</li> <li>●PIPA と支援学校の違いを知る。</li> <li>●PIPA を利用している子どもの母の手記を読む。</li> <li>●読んだ感想の意見を交換をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●PIPA の資料、写真など。</li> </ul>
<b>11 時限目</b> 幸せとは何か考える *ブラジルについての授業を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●カカオポットからチョコレートの行程を発表する。</li> <li>●カカオポットからチョコレートの行程の感想を発表する。</li> <li>●幸せについて考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●カカオポットからチョコレートの行程のパワーポイント、感想。</li> </ul>

### 3. 授業の詳細

#### 1 時限目：ブラジルを体感する 1

ねらい…ブラジルという国を身近に感じさせる。

##### ◆内容◆

① 日本で、よく知られている人の写真を見せる。

事前に、生徒には、暑中見舞いで、安倍総理歓迎の垂れ幕の写真と、川でポーズをして撮った写真を送っていた。私がどの国に旅行に行ったのか、写真から子どもたちに考えてもらう予定であったが、旅行前に、ブラジルに行くことを話してしまった生徒に、すぐに答えられてしまい、他の生徒が考えることなく、行った国がわかってしまったのが、残念だった。

次に、サンパウロの日本移民資料館で、安倍総理大臣が訪問した時の写真を見せながら、その時に日系人の人が沢山訪れていたことなど様子を話した。

##### 生徒の反応

▶ 安倍総理はよく知っている人なので、車から降りて資料館に入館するまでの様子を興味を持って聞いていた。



暑中見舞いで送った写真 1  
サンパウロの日本移民資料館

② ペレンの川の写真を見せる。

暑中見舞いの写真の説明をした後、川の他の写真を見せた。同じ様な風景の写真であったが、川の大きさに気づき、生徒は興味を示していた。

PC室のパソコンを使って、ブラジルの地図を見ながら、ペレンがブラジルのどこにあるのが説明した。



▲暑中見舞いで送った写真2  
ペレンに渡る時の川

### 生徒の反応

- ▶ 日本とは違うブラジルの景色の写真などを見て、感動している様子であった。

## 2～6時限目：ブラジルを体感する2 & 3

ねらい…日本では栽培していないカカオ豆、アサイーについて知る。カカオ豆からカカオマスをつくる。

### ◆内容◆

① カカオ豆について説明する

カカオ豆について、インターネットで調べたことをパワーポイントで説明。何故、日本ではつくられていないのかも説明したが、生徒はあまり興味を示さなかった。

カカオ豆からチョコレートが作られる工程も説明したが、興味を持つ生徒と持たない生徒の差が大きかった。

② 説明した後、実際のカカオポット、カカオ豆を見せた。

モノには、大変興味を示した。カカオポットを1回だけでなく、何度も持ってみたり、カカオ豆のにおいを何度も嗅いで、みんなで、どんな匂いがするか話合っていた。

③ カカオの栽培場所の説明、同じ地域で栽培されているアサイーを紹介する。

④ アサイー工場の写真、動画などを見る。

⑤ ブラジルから入手したアサイー、胡椒などを見る。

### 生徒の反応

- ▶ 視覚的な説明より、触覚や嗅覚を使った方が生徒の関心度が高かった。実際のモノに触れる生徒の表情を見てみると、ブラジルから持って帰ってきた苦労が報われた。

### ! ココがポイント

アサイー工場での果汁をとっている様子を写真を使いながら説明するが、いまいちの理解だった生徒も、動画で見るとすぐに納得してくれた。

## 7時限目：ブラジルまでの飛行ルートを知る。

ねらい…日本からブラジルまでの距離を知る。

◆内容◆ まず、ドイツのフランクフルトで乗り継いでブラジルに行ったと話した。

① 日本にある世界地図ではなく、ブラジルにある世界地図をつくる。

② 日本からブラジルまでの行き方を確認する。

③ 何故、ドイツのフランクフルト空港を経由したか理解する。

日本にある世界地図ではなく、ブラジルにある世界地図のように、世界地図の白地図を半分で切って、大西洋が真ん中に来るようにつくった。その地図で検証してみると半信半疑であったが、地球儀を使って検証してみると納得した。

### 生徒の反応

- ▶ なじみのある世界地図で日本からブラジルまで、ドイツのフランクフルト経由での行き方を考えると、何故なのか生徒全員が不思議に思っていた。

### 生徒の感想

- ▶ 日本からブラジルまでの空路の話をしている時に、海外への飛行機には乗りたくないという発言をする生徒がいた。理由を聞くと、障害者割引がないからだと言う。しかし、日本の国内線には割引がある。発展途上国には、福祉制度が充実してなく、障害者割引のような制度がない国も多いという結論に至る。日本では、当たり前なことでも、国によっては、そうでないことを、水などの他の例を出しながら違いを知っていった。
- ▶ 日本と他の国の違いについてまで考える予定ではなかったが、ある生徒の一言で、違いについて考えることになった。違いについて普段以上に真剣に考えている姿が見られた。

## 8時限目：水の大切さを知る。

ねらい…ブラジルなど日本以外の水のことを知る。

### ◆内容◆

前時限の経緯から水について考えることになった。

- ① 水が安全な国は少ないことを知る。水道の普及率が示される世界地図 (<http://www.jica.go/aboutoda/ikegami/01/>参照)を見て、現状を知る。発展途上国と先進国の割合とほぼ同じことを知る。
- ② 水の大切さを知り、水とのかかわり方を考える。  
JICAの水問題の小冊子『世界の水問題』を読み、理解を深めていく。
- ③ 水を大切にするには、どうすればいいのか考える。  
自分たちでどうするかを考え、小冊子に載っていることと検証した。

◆所感◆ 生徒たちは、こちらが考えている以上に、真剣に水問題について考えていた。

## 9時限目：ブラジルの中でみられる日本のよさを知る。

ねらい…ブラジルで導入された交番システムを知り、日本のよさを知る。

### ◆内容◆

- ① 訪れたサンパウロの交番や周辺の写真をみせる。
- ② ブラジルにある日本文化を知る。
- ③ ブラジルで活躍している日本人を知る。

◆所感◆ 日本では、交番は身近にあるので、ブラジルにもあることを不思議に感じていなかった。もう少し、歴史などを含めてじっくり説明しないとブラジルにおける交番の意味は理解しにくかったのかもしれない。日系学校で日本人の先生が授業をしている様子、金髪の生徒が日本語で、こちらの質問に答えている映像、INPEで世界の人々を相手に、衛星システムの映像の見方について説明している写真などを見せたが、反応は薄かった。交番の説明と同様に、じっくり説明した方がよかったのかもしれないと思ったが、子どもたちが持っているイメージを変えるインパクトを与えるものを提示しないと、期待している反応は難しいのかもしれないと感じた。



訪問した学校で、かつて日本に住んでいた生徒と話す筆者

## 10時限目：ブラジルの障害者施設を知る

ねらい…ブラジルの障害者の状況について知る。

### ◆内容◆

前回の授業の中で、日系学校を紹介していた時に、生徒から「ブラジルには支援学校はないのか？」という質問があった。その時に、PIPAの話をする、資料などを見たいと希望したので、今回は、資料を見たり、施設を利用している子どもの母の手記をグループみんなで輪読した。

- ① PIPAの資料を見る。
- ② PIPAと支援学校の違いを知る。

授業の写真などの映像を見ながら、どんな教室で行われているのか、どんなことを学んでいるのかを説明した。

- ③ PIPAを利用している子どもの母の手記 PIPA 通信を読む。

生徒からのリクエストがあったので、いっしょに通信を読んだ。

内容は、息子の行動にどう対処していいのかわからなかったこと、夫と別れて日本で育てようとしたこと、パラグアイで生活療法と出会ったこと、今、PIPAで過ごしていることが書かれていた。生徒にとって、読めない漢字も多かったが、最後まで読み切ることができた。

- ④ 読んだ感想の意見交換をする。

### 生徒の反応

▶ 真剣な眼差しで、資料をじっくり見ている。

## 生徒の感想

- ▶ 夫と別れずにすんでよかった。
- ▶ お母さんの頑張っている姿がよくわかった。
- ▶ 読んでいて最初は暗い気持ちになったけれど、読んでいるうちにだんだん明るい気持ちになってよかった。
- ▶ 限定した食べ物と好き嫌いの違いの説明していた時に、ブラジルではハンバーグなどのご馳走は食べることができないと言った生徒がいた。ブラジルに対する偏見が気になった。

◆所感◆ 支援学校の生徒は、自分と同じような立場の子のことを知るのには、抵抗があるかもしれないと考えて、PIPAのことは触れていなかった。しかし、生徒から支援学校はないの？と質問され、支援学校はないけれど、施設はあると話すと、強い関心を示してきた。資料も見たいと言ってきた。ポルトガル語の資料であったけれど、写真などを一生懸命見ている。

さらに、資料のひとつであった通信にも大変興味をもった。また、みんなでいっしょに読もうと言ったら、のってきた。

水問題の時もそうであったが、いろいろな事に興味があり、物事を深く知りたいと考えていることがわかった。深く物事を考えることは苦手かもしれないが、深く知りたい気持ちを持っていることを痛感した。また、自分自身の教材の示し方も再考していくことも痛感した。

## 11 時限目：幸せとは何かを考える（参観授業）

ねらい…ブラジルについての授業を振り返る。

### ◆内容◆

- ① カカオポットからチョコレートをつくった行程を、パワーポイントを使って、子どもたちが発表した。順番に発表する内容も分担して行った。発表した後に、参観者の講評をいただいた。

## 生徒の反応

- ▶ 子どもたちは、発表に対してコメントしてもらえることがうれしい様子であった。

- ② カカオポットからチョコレートをつくった行程の感想を発表する。

発表に対するコメントの中で、「行程の中で難しかった事は？」と質問されたので、感想を発表した後に、その質問に対する答えも言うてもらうことにした。

## 生徒の反応

- ▶ 各々の感想をしっかりと言えたこと、答もしっかり言えたことがよかった。

- ③ 幸せについて考える。

感想を言った後、カカオポットからチョコレートをつくった行程で感じたことを俳句にしてみた。その俳句を発表した後、何故、カカオポットからチョコレートをつくったのかを話した。

◆所感◆ この授業は、参観授業で、JICA から4人の方が来てくださった。授業の途中で、発表に対するコメントをいただいたり、最後には、それぞれの行かれた国のことやどんな協力をされてきたのかを話してもらった。授業の中で、発信受信双方向のやりとりをすることによって、次にどんな事を学ばば、やってきた事が深まり、また自分たちの視野、世界が広がっていくのか、新たな展望を知ることができた。この授業で、締めくくりではなく、今後も次のステップに発展できるようにチャレンジしていきたいと感じた。

#### 4. 成果

ブラジルに行って、日系社会で頑張っている人を知ることができたことが成果のひとつである。また、帰国してから日系社会のことを深く知ろうと探究心がでたことや、ブラジルが身近に感じるようになり、ブラジルの文化もより知りたいと思ったことも成果である。

けれども、一番の成果は、今まで関心の薄かったことに興味を持ち、より深く知ろうとする気持ちが生まれたことである。

#### 5. 課題

ブラジルから日本に帰国して、授業の準備をしているうちに、新たに調べ、知ったことも多くできた。また、参観授業の後の振り返りなどで、子どもたちに伝え忘れていたことを発見したり、ブラジルだけでなく、他の国のことをより知りたいと思った。特に、日系社会については、認識の仕方が180度近く変わったので、今後のテーマとしても続け、貢献できることを探し続けていきたい。地球の裏側から日本の文化の伝承に力を入れている人々に負けないように、日本の文化を見つめ直し、日本の文化について勉強し、自分の地域のことを大切にしていこうとすることを養っていくことも今後の課題である。

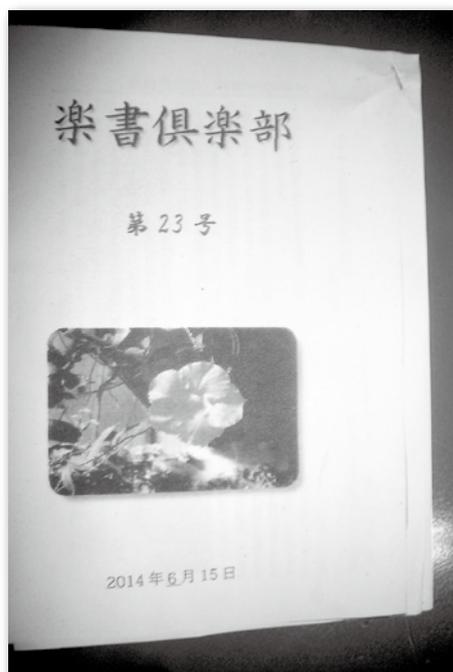
何事も深く知らなくても生きていくことはできるが、もっといろいろなことを吸収し、深めていこうという気持ちを持って過ごしていくことが国際協力にもつながっていくと思った。

##### 参考資料

参考文献 『アマソンの歌』 角田房子 毎日新聞社（絶版）  
『ブラジルに流れる「日本人の心の大河」』 丸山康則 モラロジー研究所  
『世界の水問題』 JICA 教材

参考ホームページ 池上彰と考える ビジネスパーソンの「国際貢献」入門  
<http://www.jica.go.jp/aboutoda/ikegami/01/>  
8時限目で引用

資料1 10時限目 PIPA 通信の表紙



資料2 11時限目参観授業で使用したパワーポイント

